

10/14-20 #6 神の言としてのキリスト Bird's Eye View ヨハネ1章は、ヨハネ福音書全体の序言であり、この序言の主要な強調は、キリストが神の言であるということです。彼は奥義的な見えない神の定義、説明、表現です。ヨハネ1:1初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。A 神の言としてのキリストは、大いなる「私はある」であり、自ら存在し、永遠に存在します。彼は永遠である方、始まりも終わりもない方です。B ヨハネ1章が言及しているキリストは、永遠の二つの区分と時間の架け橋にある、宇宙の歴史の五つの最も偉大な出来事、創造、肉体と成ること、贖い、油塗り、建造におけるキリストです。1 ヨハネ1章は、ヨハネによる福音書全体への序章として、「行程に行く」三一の神の歴史の要約であり、彼は過去の永遠において言でしたが、未来の永遠において究極的に新エルサレムとなります。ヨハネ1:51そして彼は言われた、「まことに、まことに、私はあなたがたに言う。天が開け、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたは見るであろう」。2 ヨハネ1章が結晶化の方法で私たちに見せているのは、永遠の言が、彼の創造する働きにおいて、また時間の架け橋を越える彼の行程において、肉体と成って彼の法理的な贖いを完成し、油塗る、命を与える、造り変える霊と成って、彼の有機的な救いを遂行し、そして究極的に彼の再生され、造り変えられ、栄光化された花嫁と完全に結合され、ミングリングされ、合併されて新エルサレム、究極のベテル、神と人の相互の住まいになるということです。C これら5つの宇宙的で歴史的な出来事において、神の言であるキリストは、1 創造における創造主、2 肉体と成ることによって私たちの間に幕屋を張った人、3 贖いにおける小羊、4 造り変えにおける油塗る霊、5 神の建造のために地を天に結び付けることでのほごとして、見えない神を定義し、説明し、表現します。II 神の言としてのキリストは、神の創造を通して神のために語ります。ヨハネ1:3すべてのものは、彼を通して成った。成ったもので、彼なしに成ったものはなかった。A 「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。昼は昼に言葉を出し、夜は夜に知識を告げる。話もなく、言葉もなく、その声も聞かれない」(詩19:1-3)。B 「神の見えない永遠の力と神性の特徴は、世界が創造されて以来、明らかに見られており、造られた物によって認められているので、彼らには弁解の余地がありません」(ローマ1:20)。C 使徒14:15~17と17:24~29で言及されていることは、神のために語るキリストの創造を啓示するという同じ目的を果たします。使徒14:15...あなたがたがこうしたむなしの事から、天と地と海とその中のすべての物とを造られた生ける神に、立ち返るようにしているのです。16 神は過ぎ去った世代には、すべて

の諸国民に、それぞれの道を行くに任せられました。17しかし神は、ご自身を証ししないでおられたわけはありません。恩恵を施し、天から雨を降らせ、実りの季節を与え、食物と喜びをもってあなたがたの心を満たしておられるのです」。17:24 宇宙とその中の万物を造られた神は、天と地の主ですから、手で造った宮の中には住まわれません。25 また彼は、何か不足しているかのように、人の手によって仕えられることもありません。彼は自らすべての人に、命と息と万物とを与えられるのです。26 また彼は、一人からあらゆる国民を造り、地の全面に住まわせ、予定された時季と居住の境界を定められました。27 それは、彼らに神を求めさせるためであり、また彼らが神を捜し求めさえすれば、神を見いだすことができるためです。確かに神は、私たち一人一人から、遠く離れておられるではありません。28 なぜなら、私たちは神にあって生き、動き、存在しているからです。あなたがたのうちの詩人たちも、『私たちが彼の種族である』と言っています。29 このように、私たちは神の種族ですから、神聖であるものを、金や銀や石などの、人の技巧や思考を彫刻したものと思うべきではありません。III 神の言としてのキリストは、肉体と成って神の幕屋となることを通して、神のために語ります。ヨハネ1:14そして言は肉体と成って、私たちの間に幕屋を張られた。それは恵みと実際に満ちていた。私たちは彼の栄光を見た。それは、父からのひとり子としての栄光であった。A 言は、肉体と成ることによって、神を人性の中へともたらただけでなく、人々の間での地上の神の住まいとして神への幕屋ともなり、恵みと実際に満ちていました。1 律法は、神が何であるかにしたがって人に要求します。恵みは、神が何であるかを人に供給して、神が要求するものに応じます。2 「私たちはみな、彼の豊満から、恵みの上にさらに恵みを受けた」(ヨハネ1:16)。B 彼は肉体と成ることにおいて、三一の神の具体化となり、神を人にもたらし、神を接触することができ、触れることができ、受け入れることができ、経験することができ、入ることができ、享受することができるようにしました。C 彼は神・人と成り、神性を人性の中へともたらし、神性を人性とミングリングしました。D 神のひとり子が肉体と成ることはまた、御言、命、光、恵み、実際の中で神を人に明らかに示す(説明する)ことでもあります。1 言は、表現され、説明され、定義された神であり、それは人が神を理解するためです。2 命は分け与えられた神であり、それは人が神を受け入れるためです。3 光は輝く神であり、それは人が照らされて、神にあずかるためです。4 恵みは人によって享受される神であり、それは人が神の豊富にあずかるためです。5 実際は人によって実際化された神であり、人が神を会得し、知るためです。IV 神の言としてのキ

リストは、贖いのための神の小羊となることを通して、神のために語りますヨハネ1:29その翌日、ヨハネはイエスが自分の所に来られるのを見て言った、「見よ、世の人の罪を取り除く神の小羊! ヘブル9:26ところが今や、諸時代の終結に当たって、彼はただ一度、ご自身をいけにえとしてささげ、罪を取り除くために現されたのです。Aキリストは、失われた世の人の贖いのために小羊となることにおいて、どのようにして神が、神の義にしたがった手続きとしてのキリストの死を通して、キリストの贖いを法理的に完成したかについて、私たちに語ります。B神の小羊は、旧約のすべてのささげ物の成就としての肉体における言を表徴し、神の全き贖いを完成します。1キリストは、罪のためのささげ物、違犯のためのささげ物、全焼のささげ物、穀物のささげ物、平安のささげ物、揺り動かすささげ物、挙げるささげ物、注ぎのささげ物の実際です。2すべてのささげ物としてのキリストと共に、私たちは神の全き贖いを持っており、この贖いを経験し享受することができます。V神の言としてのキリストは、油塗る霊と成って、新約のために有機的に、神の贖われた人を造り変えて石とし、神の家(ベテル)を建造することを通して、神のために語りますヨハネ1:32ヨハネは証しをして言った、「私はその霊がはどのように天から下って、彼の上にとどまるのを見た」。Aキリストは、油塗る、命を与える、造り変える霊と成ることにおいて、どのようにして神が彼の心の願いにしたがって、彼の神聖な定められた御旨のために、彼の神聖な命によって、彼のエコミーを有機的に完成するかを、さらに私たちに語ります。B私たちは目を覚まして、日常生活におけるいかなる事も、私たちの霊の中の油塗る霊としてのキリストと置き換わらないようにする必要があります。1キリストは油塗られた方であり、油塗る方、また油塗りとなります。反キリストの原則の中で生きることは、反油塗りとなることです(「反」は、「敵対する」、「の代わりに」、「に代わって」を意味します)。2反キリストになるとは、キリストに敵対し、他のものでキリストを置き換えることです。3もし私たちが自分自身の振る舞いや性格でキリストを置き換えるなら、ある事柄がキリストご自身と置き換わることを許すという意味において、反キリストの原則を実行しています。4私たちが悔い改める必要があるのは、反キリストの原則の中で日常生活をして、文化、宗教、倫理、天然の観念が内なる油塗りとしてのキリストと置き換わることを許しているからです。この事は油塗りに反すること、私たちの内側の三一の神の動き、働き、浸透に反対することです。5私たちは次のように祈るべきです、「主よ、私たちは油塗り(三一の神が私たちの内側で動き、働き、浸透すること)の中で、油塗りと共に、油塗りを通して、油塗りによって生き、歩きたいのです」。

Cとは、油塗る霊であり、創造された人を再生し、天然の人を油塗り、造り変えて生ける石とし、造り変えられた人を結合させます。Dペテロが回心した時、主は彼にペテロ、すなわち石という新しい名を与えました。またペテロがキリストに関する啓示を受けた時、主はさらにご自身が岩、石であることを啓示しました。これら二つの出来事によってペテロは、キリストと彼の信者たちの両方が神の建造のための石であるという印象を受けました。ヨハネ1:42そして彼をイエスの所に連れて行った。イエスは彼を見て言われた、「あなたはヨハネの子シモンである。あなたをケパ(訳せばペテロを意味する)と呼ぶことにする」。VI神の言としてのキリストは、神の建造のためにはしごとなって、天(神)を地(人)にもたらし、地(人)を天(神)に結び付けて一とならせることを通して、神のために語りますヨハネ1:51そして彼は言われた、「まことに、まことに、私はあなたがたに言う。天が開け、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたは見るであろう」。Aキリストはまた、ベテルにおける天のはしごであることにおいて、神がどれほど地上でご自身の贖われ造り変えられた選びの民で構成された家を持ち、それによって天を地にもたらし、地を天に結び付け、両者を一にして永遠に至ることを願っているかを私たちに語ります。Bヤコブの夢はキリストの啓示です。なぜならキリストは、ヤコブがベテル、神の家で見たはしごの実際であるからです。創28:12彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地上に立っており、その頂は天に達していた。すると見よ、神の御使いたちが、その上を上り下りしていた。1私たちの再生された霊は、今日の神の住まいであり、キリストが天のはしごとして立てられている地上の基礎です。2天の門であるベテル(神の家、神の住まい)において、キリストははしごであって、地を天に結び付け、天を地にもたらしめます。ですから、私たちが霊に戻るときはいつでも、神を私たちに、私たちを神にもたらしはしごとしてのキリストを経験します。3天のはしごとしてのキリストの結果は、神の建造、ベテル、召会、キリストのからだであり、このはしごの究極的完成は新エルサレムです。C「主の再来は、彼を追い求める者たちの堅固な建造を必要とします。この建造は、彼が地を占有するための踏み石、足掛かりとなり、神と人の両方の相互の住まいとなります。それは永遠に神性と人性との、また人性と神性とのミングリングとなります。...この建造は、ヤコブの夢の究極的な実現となるだけでなく、神の永遠のご計画の究極的な完成ともなります。それは時間の架け橋を終わらせ、未来の祝福された永遠を導入します。私たちはその建造のためでなければならず、その建造でなければなりません!」(ヨハネLS#5)。

CP1 聖霊で満たされて、大胆に様々な言語で神の言葉を語り、人に恵みとしての神を供給する

III 神の言としてのキリストは、肉体と成って神の幕屋となることを通して、神のために語ります **ヨハネ 1:14** そして言は肉体と成って、私たちの間に幕屋を張られた。それは恵みと実際に満ちていた。私たちは彼の栄光を見た。それは、父からのひとり子としての栄光であった。 **A** 言は、肉体と成ることによって、神を人性の中へともたらしただけでなく、人々の間での地上の神の住まいとして神への幕屋ともなり、恵みと実際に満ちていました。 **1** 律法は、神が何であるかにしたがって人に要求します。恵みは、神が何であるかを人に供給して、神が要求するものに応じます。 **2** 「私たちはみな、彼の豊満から、恵みの上にさらに恵みを受けた」(ヨハネ 1:16)。 **B** 彼は肉体と成ることにおいて、三一の神の具体化となり、神を人にもたらし、神を接触することができ、触れることができ、受け入れることができ、経験することができ、入ることができ、享受することができるようにしました。 **C** 彼は神・人と成り、神性を人性の中へともたらし、神性を人性とミングリングしました。 **D** 神のひとり子が肉体と成ることはまた、御言、命、光、恵み、実際の中で神を人に明らかに示す(説明する)ことでもあります。 **1** 言は、表現され、説明され、定義された神であり、それは人が神を理解するためです。 **2** 命は分け与えられた神であり、それは人が神を受け入れるためです。 **3** 光は輝く神であり、それは人が照らされて、神にあずかるためです。 **4** 恵みは人によって享受される神であり、それは人が神の豊富にあずかるためです。 **5** 実際は人によって実際化された神であり、人が神を会得し、知るためです。

適用: 青少年・学生、新人編

証1 今年の8月に私たちの地区で手話の高齢の姉妹が亡くなりました。偲ぶ会を行うにあたって、余力姉妹にビデオレターで証をしていただきました。開催する前日に急遽お願いしたのですが、姉妹はすぐに来てくださって録画することができました。内容は次のようなものでした、「姉妹は晩年病気になりましたが最後まで集会をやめることなく、外側は弱っておられても、内側は新鮮にされていました。私たちは教会生活があり、とても幸いです。神戸に在る教会は12年前に六甲山にリジョイスガーデンという別荘を購入し、お元気だったころの姉妹は兄弟と共にたびたびメンテナンスのために来られました。兄弟は器用で、機械についてもよくご存じで、様々な奉仕に共に携わってきました。そばで姉妹は細かな奉仕を喜んでしておられました。私は何度か『姉妹、ありがとうございます。兄弟はすごいで

すね。よくやってくれて、本当に助かっています』と伝えましたが、そのたびに姉妹は『いえいえ、彼はできることをやっているだけです。私たちがしているのはほんの少しだけ。私たちは何もありませんよ』と言われました。姉妹が大好きだった詩歌、『何という喜び、何も持たず、無で、栄光の中のキリストのみ見る。…主の権益のほか、何も顧慮しない』は、私が見てきた姉妹とぴったりです。人はいつ病気になるか分かりませんが、姉妹は元気なうちに時間を贖い取って、兄弟と一つ心で、主を愛し、教会を愛し、実際的な奉仕をしてくださったことを感謝します！栄光を主に帰します！」。これを聞いて、私は証をされる余力姉妹からとても供給されました。証を準備する時間はおそらく無かったと思いますが、常に神の臨在の中におられる余力姉妹から、瞬時にキリストの豊満があふれ、私たちの享受となりました。偲ぶ集会でこの証を聞いた兄弟姉妹、ご親族もみな慰められ、励まされ、照らされ、命を分与されたと思います。

証2 神の言としてのキリストは、肉体と成って神の幕屋となることを通して、神のために語ります。このキリストは今、私の霊の中に住んでいて、この方を通して、私も神のために語ることができます。先週、余力兄弟が救われたばかりの時、メッセージをした兄弟が話した後、霊が沈まないように、いつも率先して霊を活用して分け与えをした証しを聞いて、照らされました。私には進取性が足りないことを主に告白し、そして集会の中で率先して分け与えるようにしました。霊を活用して主のために語ろうとすると不思議と言葉が出て来ます。そして主のために語るととても享受があります。

以前、登山口で福音をしていた時、他の兄弟姉妹が友人を集会所に連れて帰った後、私は一人で宣べ伝えていました。その時、今集会に来ているガズウィル兄弟に会いました。私は英語を話せませんが、ビラの御言葉を一緒に読んで、集会所に連れて行きました。その後、彼が神戸大学BSGIに来たので、彼のために皆で英語のライフスタディを読みました。私は英語が苦手なので最初は黙っていましたが、ブレンディングされる必要があると感じ、私も読み、分け与えをしました。英語があまりできないのに私も英語を読み始めたのを見て、彼は驚いていました。私は、神の言葉を語るために頑張って英語を読んで分け与える時に、喜びがありますと言いました。そしてこれから日本語を勉強する彼に、日本語を勉強する時にも、主のために語ることを願うなら、大胆さを持って語るができるようになりますと言って励ましました。権威の霊で満たされた結果は、大胆に神の言葉を様々な言語で語ることです。

CP2神の家の建造のため、反キリストの原則に従った生活を悔い改め、油塗りの霊で造り変えられる

V神の言としてのキリストは、油塗る霊と成って、新約のために有機的に、神の贖われた人を造り変えて石とし、神の家(ベテル)を建造することを通して、神のために語りますヨハネ1:32「私はその霊がはどのように天から下って、彼の上にとどまるのを見た」。

1ヨハネ2:27 ...あなたがたは、誰にも教えてもらう必要はありません。彼の油塗りが、全ての事をあなたがたに教えます。**A**キリストは、油塗る、命を与える、造り変える霊と成ることにおいて、どのようにして神が彼の心の願いにしたがって、彼の神聖な定められた御旨のために、彼の神聖な命によって、彼のエコノミーを有機的に完成するかを、さらに私たちに語ります。**B**私たちは目を覚まして、日常生活におけるいかなる事も、私たちの霊の中の油塗る霊としてのキリストと置き換わらないようにする必要があります。**1**キリストは油塗られた方であり、油塗る方、また油塗りとなります。反キリストの原則の中で生きることは、反油塗りとなることです(「反」は、「敵対する」、「の代わりに」、「に代わって」を意味します)。

2反キリストになるとは、キリストに敵対し、他のものでキリストを置き換えることです。**3**もし私たちが自分自身の振る舞いや性格でキリストを置き換えるなら、ある事柄がキリストご自身と置き換わることを許すという意味において、反キリストの原則を実行しています。**4**私たちが悔い改める必要があるのは、反キリストの原則の中で日常生活をして、文化、宗教、倫理、天然の観念が内なる油塗りとしてのキリストと置き換わることを許しているからです。この事は油塗りに反すること、私たちの内側の三一の神の動き、働き、浸透に反対することです。**5**私たちは次のように祈るべきです、「主よ、私たちは油塗り(三一の神が私たちの内側で動き、働き、浸透すること)の中で、油塗りと共に、油塗りを通して、油塗りによって生き、歩きたいのです」。**C**とは、油塗る霊であり、創造された人を再生し、天然の人を油塗り、造り変えて生ける石とし、造り変えられた人を結合させます。**D**ペテロが回心した時、主は彼にペテロ、石という新しい名を与えました。またペテロがキリストに関する啓示を受けた時、主はさらにご自身が岩、石であることを啓示しました。これら二つの出来事によってペテロは、キリストと彼の信者たちの両方が神の建造のための石であるという印象を受けました。

適用:ビジネスパーソン編

証私は、造り変える霊の語り掛けが、私の反キリストに従った生活をキリストに従った生活に造り変えてくださったこと、そしてその目的が個人の祝福のためではなく、建造のためであることを証します。

私は救われて、召会生活の中で主を享受し始めてから、主が私に示して下さったことが二つあります。**①**私の行為は反逆的であるので、悔い改めて、主に服従する必要がある、**②**私の存在、性格自体が主に反しているの、造り変えられなければならないということです。しかし当時、私は主に服することを渋っており、なかなか主に従えませんでした。また、なぜ主に従う必要があるかということを理解していませんでしたので、「どうして、主はこのように私にだけ厳しいのか?」と考え、天然の命の中でもがいていました。特に薬学の勉強、暗記することと解剖の実験に馴染めず、いつも主に不平不満を言っていました。しかし、主は大学4年時の大学院受験と薬剤師国家試験を用いて、私を対処して下さったので、私は納得させられ、降伏することを学び始め、祈りました、「主よ、私は長い間、あなたに服従することに同意せず、暗闇の中でもがいていました。私の反逆の罪を赦してください。あなたを主とし、王とします」。

大学院の研究で、私は手先の器用さを要する実験をしなければなりません。手先が不器用な私にとって、その実験は恐怖でした。それでも、私には逃げ道が無かったので、真剣に主に祈り、主に信頼しました。驚いたことに、主と共に実験した結果、良い結果を得ることができました。私は苦手意識を克服できました。**2コリント 12:9**すると主は私に言われました、「私の恵みは、あなたに対して十分である。私の力は、弱さにおいて完全に現れる」。ですから、私はむしろ自分の弱さを、大いに喜んで誇りましょう。私は、自分の本分である薬学の勉強が苦手でしたが、大学院の時から、弱さの中で主の力が現されることを経験し始めました。私の弱さの中でこそ、主の恵みの力が現される機会となりました。そして、なぜ今まで弱さの中にとどまって主の恵みを経験せず時間を無駄にしてきたのかと考えた時、私自身が反キリストで構成されているので、どうやっても自分では自分の存在自体を変えることができないことがわかりました。私は祈りました、「主よ、私は反キリストの人、反逆的な人です。私は反逆の罪が赦される必要があるだけでなく、造り変えられる必要があります」。

その後、全時間訓練を経過して、私はキリストの経験は、建造のためであるというビジョンをはっきり見ました。造り変える霊の働き、すべてのキリストの経験は、個人の祝福のためではなく、完全に召会建造のためです。この建造のビジョンは、私を大いに強めたので、職場でキリストを豊かに経験することができました。会社では、私の得意、不得意とは無関係に、様々な予期せぬ環境が襲ってきましたが、その都度、建造のためにキリストを適用できました。